

# rara-ca

Vol.06  
2024 SUMMER  
セントラル愛知交響楽団  
特別情報誌

音合わせ心ひとつに「ら」でチューニング… Central Aichiの情報をお届け

## 第205回定期演奏会 〈チェコの香り〉

7/12(金) [開演18:45] 愛知県芸術劇場コンサートホール  
[出演]レオシュ・スワロフスキー  
[プログラム] ドヴォルザーク:序曲「謝肉祭」Op.92, B.169、  
スメタナ:連作交響詩「わが祖国」(全曲)

指揮者 **レオシュ・スワロフスキー**

SPECIAL MESSAGE



セントラル愛知交響楽団の音楽監督としての在任期間を終え、あれから5年が経ちました。この素晴らしいオーケストラと共に過ごした7年間は、非常に充実した時間でしたし、多くの素敵な友人を作ることができました。しかし、新型コロナウイルスの影響で、長い間ステージを共にすることができず、とても残念に思っていました。そんな中、ついにセントラル愛知交響楽団でチェコを代表するプログラムを演奏できることを心から嬉しく思います。私自身「わが祖国」をこれまでに50回以上指揮してきましたが、全6曲とも美しいと感じています。特に日本では第2曲の「モルダウ」が有名ですが、この他の部分も同様に高い芸術的価値があると考えています。名古屋の皆様にお会いできるのを楽しみにしていますし、素晴らしい時間を過ごしたいです。ちなみに今回で日本への訪問は68回目です。

[料金] プラチナ¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000  
※U25各席半額

## 第206回定期演奏会 〈イギリスの色彩〉

9/28(土) [開演14:30] 愛知県芸術劇場コンサートホール  
[出演]角田鋼亮、上野通明(Vc)  
[プログラム] ウォーン・ウィリアムズ(グリーヴス編):「グリーンズリーヴス」による幻想曲、  
ウォルトン:チェロ協奏曲、アーサー・プリス:色彩交響曲

指揮者 **角田鋼亮**

SPECIAL MESSAGE



セントラル愛知交響楽団今シーズンのテーマ「新しい景色、新しい音世界」の中心に据えた作品が、今回演奏するプリスの「色彩交響曲」です。今から約100年前の1922年に書かれたこの作品はプリスの出世作にして代表作となりました。4つの楽章にはそれぞれ紫、赤、青、緑と色のタイトルが付いており、その色のイメージがメロディ、ハーモニー、リズム、オーケストレーションなどによって描かれています。プリスによって音化された色には特定の象徴するものがありますが、見え方聴こえ方感じ方はお客様一人一人違うかもしれません。違って当然だと思います。そこには、それぞれの人のものの見方、生き方、経験などが反映されると 생각합니다。皆さんは、これらの色からどんな音楽を想像されるでしょうか。あるいは、聴こえてくる音楽からどんな色を想像されるでしょうか。前回に引き続き、レクチャー講座を行います。そういった予習を万全にして公演に臨むもよし、あえて情報を入れず当日の演奏から色を感じていただくのもよし。皆さんの感覚を大事に聴いて頂けたら幸いです。

チェリスト **上野通明**

SPECIAL MESSAGE



この度、セントラル愛知交響楽団の皆様とご一緒させていただけること、とても嬉しく、今から楽しみでなりません。今回演奏するイギリス人作曲家 ウィリアム・ウォルトンのチェロ協奏曲は、ロシアの名チェリスト、ピアティゴルスキーのために書かれました。ウォルトンは、ヴァイオリン協奏曲やヴィオラ協奏曲も残しており、その後作曲されたチェロ協奏曲は決して頻りに演奏される曲ではありませんが、作曲家の自信作であり、間違いなく最高傑作です。初めて聴いた時からその独特で不思議なハーモニーや色彩感、メランコリックなメロディーや燃え上がる炎のようなリズムの激しさに魅せられています。一貫して深いロマンチズムさえ感じるこの作品の魅力、皆様と存分に共有できたら嬉しく思います。

プラチナ¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額

### この公演は公益財団法人アフィニス文化財団 による助成を受けています

#### アフィニス エンブレム

「音楽文化の担い手としてのプロ・オーケストラが主催する、わが国ならびに各楽団が活動の重点を置いている地域にとって意義がある企画」として選ばれました。



## 超! 有名曲シリーズ Vol.7『アメリカ』 7/28(日) [開演14:30] 愛知県芸術劇場コンサートホール

[出演]松尾葉子、外山啓介(Pf) [プログラム] ジョン・ウィリアムズ:オリンピック・ファンファーレとテーマ(1984年ロサンゼルス五輪)、  
ガーシュウィン:ラプソディ・イン・ブルー(F. グローフェによるピアノと管弦楽編)、ガーシュウィン:パリのアメリカ人

指揮者 **松尾葉子**

SPECIAL MESSAGE

7月、いよいよパリ五輪が始まります。まさにこの華やかな祭典の時期にセントラルは超有名曲シリーズの「アメリカ編」を行います。ガーシュウィンの音楽を中心に、ジョン・ウィリアムズ作曲の華やかなロサンゼルスオリンピックのファンファーレとマーチで演奏会を始めます。ガーシュウィン作曲の『ラプソディ・イン・ブルー』はジャズのリズムやハーモニーが取り入れられて、ピアノとオーケストラが見事に調和している作品です。ピアニストは何度も共演しています外山啓介さん、素晴ら

しい演奏を聴かせていただけたと思います。そして、同じガーシュウィンの『パリのアメリカ人』はタクシーホーンがとり入れられ、パリの混雑した喧噪の模様を描いています。現代のパリも中心街は車、バイク、自転車などでごった返っていて、この曲が作られた頃とあまり変わらないのかと思うことがあります。パリはとにかく車のクラクションがよく聞きます。多分気の短い人が多いでしょう。10月には情熱の音楽あふれる「スペイン編」、来年1月には華やかなワルツや鬼才モーツァルトの交響曲の「ウィーン編」と続きます。コンサートはマチネ。ホールでの生演奏、是非お出かけください。

[料金] S¥5,000(Sペア¥7,000) A¥4,000(Aペア¥5,600) B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額(ペア席対象外)

